

2) 豊公館

- ▶ 前記1)のとおり、博覧会の第二会場が大阪城で開催されました。このとき、天守台に二層の仮説建物が建てられ、「豊公館」と名づけられました。豊公館の外観は、桃山様式に則って造られました。1階は豊臣秀吉の遺品や、その時代の歴史資料が展示され、2階は展望台となっていました。豊公館には、わずか45日間の会期間中にもかかわらず、69万8386人の入場者がありました。豊公館の人気の、のちの天守閣復興につながっていきます。



豊公館



3) 天守閣の復興が議会で可決

- ▶ 昭和3年(1930)11月、昭和天皇即位の式典が行われるにあたり、大阪市の記念事業として、寛文5年(1665)1月の落雷で焼失して以来約270年間失っていた天守閣の復興が、第7代大阪市長 関一(せきはじめ)より大阪市会に提案され、満場一致で可決されました。

現市長の関淳一氏は、関一の孫にあたる。



第7代 大阪市長 関一 像

4) 寄付金の募集

- ▶ 昭和3年8月から寄付金を募集し、早くも翌年の2月に目標額の150万円に到達しました。最も多く寄付をした人は、住友財閥の住友吉右衛門氏で25万円。続いて、三菱財閥の岩崎小弥太氏で5万円でした。

5) 天守閣再建の問題点

- ▶ 大阪城内は明治以降、陸軍の軍用地となっており、あらゆる施設が所狭しと建っていたため、一般の市民や観光客が、自由に入出入りすることは困難であると予想されました。そのため陸軍からいくつかの条件が出され、それを認めるということで再建が進められました。その条件とは、募金額の6割を新庁舎の新築に充て、残りの4割を天守閣再建・大阪城公園の整備に充てること。また、いざという時は天守閣を軍部に明け渡すということでした。新築された第四師団司令部の庁舎は、戦後、進駐軍の本部、大阪市警察本部と移り変わり、大阪市立博物館として2002年3月31日まで利用されていました。

6) 大阪城天守閣の再建

- ▶ 天守閣の建設は昭和5年(1932)5月6日に起工し、翌年の10月30日に竣工しました。(約270年ぶりに天守閣が復興しました。)豊臣期の天守閣の復興が望まれ、数少ない資料から現在の天守閣が設計されました。竣工式典は、昭和6年(1931)11月7日に行われ、同月16日から一般公開が始まりました。

⑫ 第二次世界大戦中の大阪城 ～陸軍により閉鎖された大阪城～

1) 観光客入場の規制

- ▶ 昭和12年(1937)に日中戦争が開戦となり、これ以降は戦時体制となったため、大阪城の観光客に対し、規制が強まってきます。
昭和15年(1940)、大手門で写真機が取り上げられるようになりました。
次第に規制が強化され、天守閣の展望台を閉鎖し、窓はすべて鎧戸で覆い隠されてしまい、館内の展示品以外は見る事ができなくなりました。
これにより、一般客は大阪城内の軍事施設や軍需工場をまったく見る事ができなくなります。

2) 天守閣の一般公開を閉鎖

- ▶ 昭和17年(1942)9月25日、ついに市民の寄付により復興された天守閣が軍部に取り上げられる事になり、市民への公開も閉鎖となりました。
その後、敗戦により進駐軍に明け渡すまでの期間中、この天守閣をどのように使用していたかは不明のままです。

⑬ 敗戦直後の大阪城 ～進駐軍に占領された大阪城～

1) 8・14の大空襲

- ▶ 昭和20年(1945)8月14日午後1時ごろ、アメリカ軍のB29戦闘機145機が、大阪城とその周辺にある軍の施設・砲兵工廠を空襲しました。
1トン爆弾をばらまいたため、民間人も含め大きな打撃を蒙りました。
京橋駅にも5つの爆弾が落ち、700～800名の死者が出たといわれます。

2) 天守閣の被弾

- ▶ この時の空襲で、大阪城天守閣は奇跡的に壊滅せず残りました。
しかし、2発の1トン爆弾を近くに落とされ、石垣が相当ずれました。
また、雨あられのように放たれた焼夷弾により、天守閣の屋根もずいぶん傷みました。
天守閣は、石垣に重みをかけないという特殊な工法で建てられていたため、大きな打撃を受けずに済みました。

<大阪城の被弾、大阪砲兵工廠壊滅>

豊臣期の大坂城焼失では徳川政権が安泰となり、幕末期の大坂城焼失では、薩摩・長州を中心とする天皇政権の安泰へとつながっていきます。
このときの被弾により、天守閣は何とか形を残したものの、その周囲の砲兵工廠の建物などが壊滅しました。そして政府も大日本帝国の軍国主義から、民主主義の国家へ移行変わっていきます。



空襲直後の大阪城

3) 砲兵工廠・櫓・門などの被弾

- ▶ 砲兵工廠破壊が主目的であったため、砲兵工廠の施設は壊滅状態になりました。また、大阪城の貴重な建物も破壊されました。破壊されたのは、徳川期に創建された二の丸二番櫓・三番櫓、伏見櫓、坤櫓、京橋門などです。



伏見櫓



二番櫓と三番櫓

4) 進駐軍に占領された大阪城

- ▶ 昭和20年(1945)8月15日終戦となり、9月下旬和歌山に進駐軍が上陸します。進駐軍は大阪城の明け渡しを命じます。展示資料や書物を天守閣に残したまま進駐軍が入場します。以後3年間、大阪城は進駐軍に占領されました。昭和23年(1948)の夏、アメリカ軍から大阪市へ返還されました。返還された天守閣内はさんざんに荒らされていたようです。返還される前年(昭和22年)には、米軍の失火により紀州御殿が焼失しています。少し意味合いは違いますが、石山本願寺から数えて4度目の落城となります。これまでの落城の際には、政治・政権が大きく変化しましたが、この時の大阪城落城では(直接関与していませんが)、軍国主義が廃され、日本国憲法のもとに民主主義へと変化しています。

5) 応急復旧

- ▶ 返還後、応急に復旧作業がなされて、大阪市の管理のもとで、昭和24年(1949)7月より一般公開が再開されました。

⑭ 現在の大阪城 ～大阪のシンボル「大阪城」～

1) 一般公開の再開

- ▶ 昭和24年(1949)7月より一般公開が再開され、現在に至ります。また近年、平成の大改修が行われ、より一層豪華で美しい城となりました。これからも大阪のシンボルとして、後世に歴史を語り続けてくれることと思います。

